

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

大義が、幸せを奪っていきました。

ショスタコーヴィチの遺した、戦争への悲歌。

グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

GRIGI: Piano Concerto in A minor, op. 16

ショスタコーヴィチ：交響曲第8番 ハ短調 作品65

SHOSTAKOVICH: Symphony No. 8 in C minor, op. 65



音楽への一途な愛を貫く鬼才

指揮 上岡 敏之

Conductor TOSHIYUKI KAMIOKA



93歳のスペインの至宝

ピアノ

ホアキン・アチュカロ

Piano JOAQUÍN ACHÚCARRO

©Jean-Baptiste Millot

読売日本交響楽団 第659回 定期演奏会

2026 6/23(火) 19:00 サントリーホール

S ¥8,800 A ¥7,700 B ¥6,600 C *ソールドアウト*

YNSO Subscription Concert No. 659

Tue. 23 Jun. 2026, 19:00 Suntory Hall

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））| 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力：アフラック生命保険株式会社

私たちは「戦争の世紀」に生きている。20世紀も今も国家による凄惨な暴力と死は絶えることがない。そのことを誰よりも敏感に受け止めた作曲家にショスタコーヴィチがいる。ショスタコーヴィチは不穏で緊迫した時代の空気を呼吸しながら音楽を書き続けた。彼の交響曲を演奏する時、オー

鉄の暴力と死の沈黙、そして鎮魂の祈り “孤高の芸術家”上岡が魂を込める

ケストラと指揮者もまた、同じように血なまぐさい体験をせざるを得ない。

上岡敏之は昨年、読響でショスタコーヴィチの交響曲第11番「1905年」を振り、聴衆を震撼させた。大勢の市民が殺された惨劇をまるで目の前で起こっているかのように聴かせる迫真の指揮は、深い悲しみと激しい怒りに満ちていた。音楽に魂が宿るとはこういうことなのだ。

ショスタコーヴィチは交響曲第8番で第2次世界大戦におけるスターリングラードの激戦を描いた。ハ短調という調性を持つ悲劇的な性格は言う



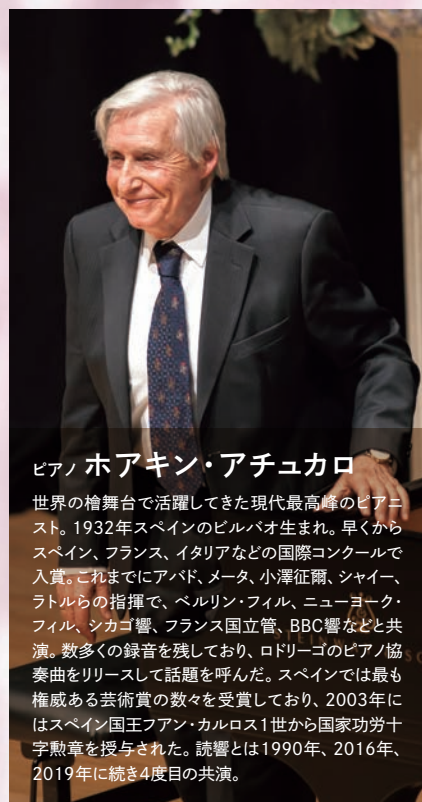
指揮 上岡 敏之

ドイツを拠点に活躍し、音楽へ愛を注ぐ孤高の芸術家。東京芸大卒業後に渡独、ハンブルク音大で学び、キール市立劇場でキャリアを始めた。ヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ザールラント州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール響首席指揮者、ヴッパータール市立歌劇場音楽総監督及びインテンダント、新日本フィル音楽監督、コペンハーゲン・フィル首席指揮者などの要職を務めた。ケルン放送響、ハンベルク響、バイエルン放送響、シュトゥットガルト放送響などに客演。現在、ザールブリュッケン音楽大学指揮科正教授。読響とは1998年以降共演を重ね、多くの名演奏を残している。またピアニストとして《読響アンサンブル・シリーズ》にも度々登場。

までもない。垂れ込める暗鬱な雰囲気とすべてをなぎ倒す鉄の暴力、そして死の沈黙。これら表現するために指揮者は文字通り命がけて取り組まなければならない。上岡にはそれができる。

「戦争の世紀」に書かれた交響曲は屈折した二重性を帯びている。朗らかな陽気さの裏に悲痛な感情が隠され、勇壮な行進のさなかに恐怖に駆られた絶叫が混じる。上岡はそれらを冷徹に読み取り、熱狂的に表現するだろう。交響曲第8番の奥底にある、人間が持つ「存在の不安」をえぐり出し、嫌と言うほど見せつけてほしい。それがあってこそ、最後に訪れる鎮魂の祈りと平和への希望が聴き手の胸に迫るのだ。

ショスタコーヴィチの音楽が重すぎてつらいという人は、前半のグリーグのピアノ協奏曲に楽しみを見いだせるだろう。年齢93を数えるスペインの名手アチュカロは「生きた伝説」だ。柔らかいタッチから生まれる温かい音色と叙情味あふれる歌心は、本質的にロマンチストである上岡と相性が良い。心に染みる名演になることは間違いない。



ピアノ ホアキン・アチュカロ

世界の檜舞台上で活躍してきた現代最高峰のピアニスト。1932年スペインのビルバオ生まれ。早くからスペイン、フランス、イタリアなどの国際コンクールで入賞。これまでにアバド、メータ、小澤征爾、シャイー、ラトルらの指揮で、ベルリン・フィル、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、フランス国立管、BBC響などと共演。数多くの録音を残しており、ロドリゴのピアノ協奏曲をリリースして話題を呼んだ。スペインでは最も権威ある芸術賞の数々を受賞しており、2003年にはスペイン国王ファン・カルロス1世から国家功労十字勲章を授与された。読響とは1990年、2016年、2019年に続き4度目の共演。

読売日本交響楽団 第659回 定期演奏会

2026年 6月23日(火) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B ¥6,600 / C **SOLD OUT**

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>